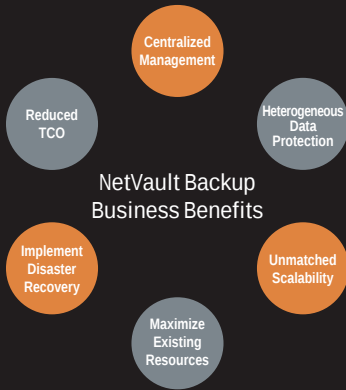
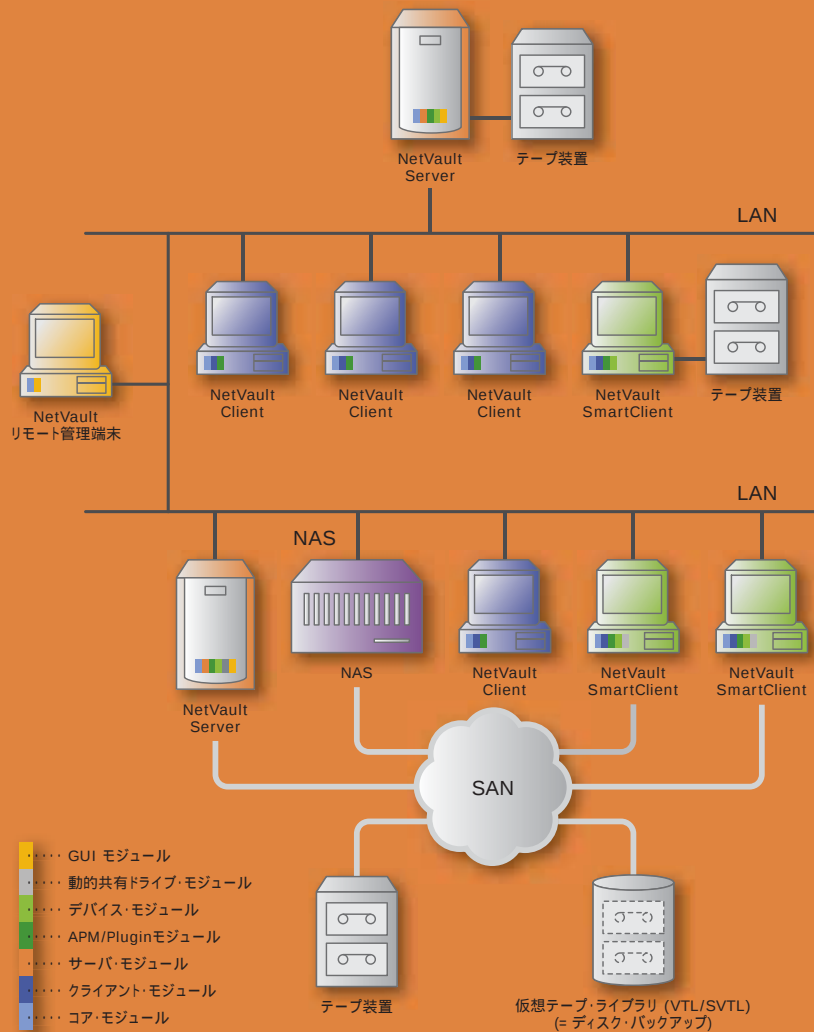
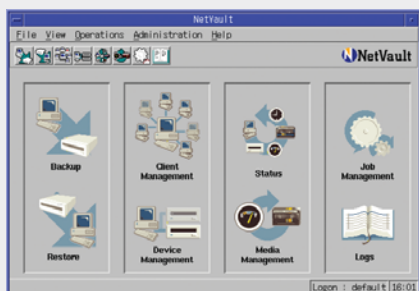




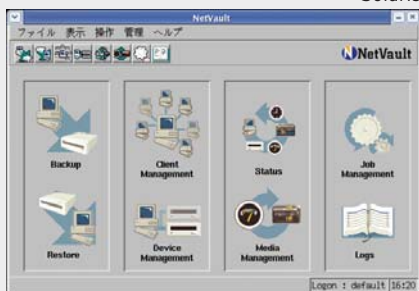
NetVault Backupは、UNIX、Linux、Windows、FreeBSD、NetWare、Mac OSなど様々なOSのバックアップ/リストアをまとめて行えるソフトウェアです。NetVault Backupは、1台のNetVault Serverと、それに割り当てられた複数のNetVault ClientでひとつのNetVaultドメインを構成します。このNetVaultドメインの管理は、NetVault Serverから行えるだけでなく、ドメイン外部にある別のマシンを管理端末とし、リモートから行うことも可能です。テープ・ライブラリやハード・ディスクをバックアップ・デバイスとし、NetVaultの柔軟なスケジューリングによりバックアップ作業の完全自動化を実現します。



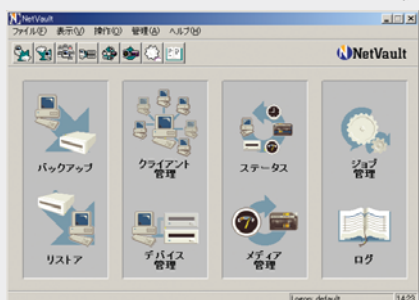
NetVault Backupは、企業のシステムの拡張に合わせ、サーバ 1 台のバックアップから、エンタープライズ・レベルのバックアップまで、必要な時、必要なだけ拡張することができるバックアップ / リストア・ソフトウェアです。今日のマルチプラットフォーム環境や、膨大なデータを扱うアプリケーションが抱えるデータ保護問題をNetVault Backupがシンプルに解決します。



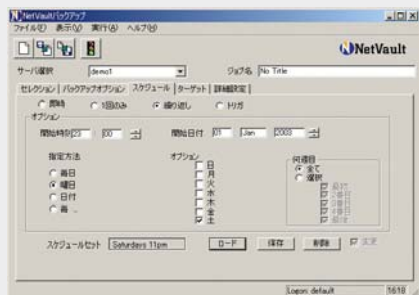
Solaris



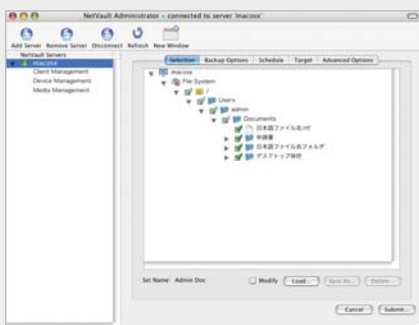
Linux



Windows



NetVault Backupスケジューリング設定画面



Mac OS Xバックアップ・ファイル選択画面

マルチプラットフォーム対応と集中管理

Linux、UNIX、Windows、FreeBSD、NetWare、Mac OSなど、ほとんどのOSのバックアップに対応しています。バックアップのスケジューリングや、データのトラッキング、ストレージ・デバイスの割り当てなど、複数台のサーバのバックアップ作業が1台の管理端末から集中管理で効率よく行えます。

すべてのプラットフォームで共通した使いやすいGUI

使用するNetVault Backupの管理GUIは、UNIX、Linux、Windowsとも全く同じで、全OSで共通の操作性を提供しています。Mac OS用には、Macユーザーに親しみやすいMacネイティブのAPIを使用して開発することで、Aquaユーザーインターフェイスも提供しています。ポイント&クリックのシンプルな操作で、高度なバックアップ機能をご利用いただけます。

バックアップの完全自動化

NetVault Backupの柔軟なスケジューリング機能を使用することで完全な自動バックアップ・システムの構築を実現します。メディアの自動交換にも対応していますので、システム管理者が不在の夜間でも、自動でバックアップが行えます。

モジュラ・アーキテクチャの採用による変化する環境への柔軟な対応

BakBoneは、モジュラ・アーキテクチャを採用してNetVault Backupを設計しています。モジュラ方式による設計は、プラグイン・モジュールを追加することで市場に出てくる新しい製品や機能に柔軟に対応することを可能にします。

例えば新しいバージョンのデータベース・ソフトウェアや、新しいデバイス、新しいOSがリリースされた時、モジュール方式であれば、これら機能に対応するため、複数のプラグイン・モジュールをそれぞれ独立して同時に開発することができます。開発期間を短縮することで、NetVault Backupは変わり続けるIT環境に迅速に追いつくことが可能です。

また、IT管理者は、必要なプラグインを必要な時に追加することができるの

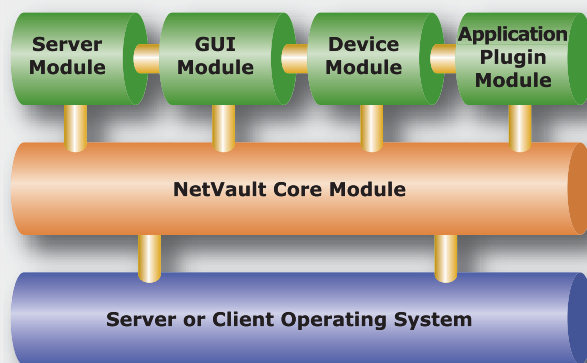
で、余計なライセンス・コストを省き、簡単にシステムの変更を行うことが可能です。

管理／維持コストの削減

NetVault Backupに組み込まれた自動設定機構により、自動的にネットワーク上のアプリケーションやデバイスを検知し設定を行うことが可能です。本機構により、NetVault Backupの設定は、数日の単位ではなく、数分の単位で、その作業を完了することが可能です。高度な設定サービスを必要とすることなく導入が可能なので、インシタル・コストを抑えます。また、将来的にテープ・ドライブやライブラリを追加しても、それらを素早く検出、追加できるので、IT管理者は特別なサポート・サービスに頼ることなく、堅牢なデータ・インフラストラクチャを維持することが可能です。

標準テープ・フォーマットの採用

NetVault Backupはテープ・スパンニング等の高度なバックアップ機能を使って書き込みを行う場合を除き、UNIX/ LinuxにはCPIO、WindowsにはMTFの標準テープ・フォーマットを採用することで、バックアップ・サーバの損失時にもデータの可用性を保証します。



幅広いストレージ・オプション:

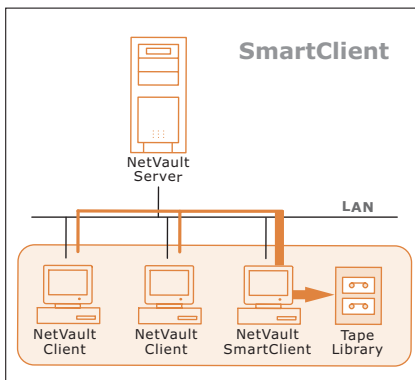
DAS/SAN/NASの統合管理

NetVault Backupは、LTO3やSDLT/DLT VS160などの最新デバイスを含め、市場にあるほとんどのテープ・ドライブ、オートローダ、ライブラリに対応しています。サーバにSCSIで直接接続されたテープ装置(DAS)にも、SAN (Storage Area Network) に接続されたFCやiSCSIのテープ装置にもバックアップを行うことが可能です。また、NAS (Network Attached Storage) のバックアップには、NDMPプロトコルを使用した高信頼性の高速バックアップを提供しています。NetVault Backupの幅広い対応により、ストレージの選択肢を広げ、ボトルネックのない柔軟なシステム構成を実現します。

クライアント接続デバイスのサポート

● SmartClient™

SmartClientオプションを使用することにより、バックアップ・サーバ (= NetVault Server) に接続されたテープ・デバイスだけでなく、バックアップ対象となるNetVault Client側に接続されたテープ・デバイスにもバックアップすることが可能になります。バックアップ・データの多いNetVault Clientは、ローカルに接続されたデバイスへバックアップを行うことで、複数台のバックアップをスムーズに行うことができます。また、NetVault Clientから、テープ装置を接続した別のNetVault Client (=SmartClient) にバックアップを行うことも可能です。テープ・デバイスが分散していても、これらすべてのデバイスの管理を集中して行えます。



動的共有ドライブ

● Dynamically Shared Drives (DSD™)

DSDオプションを使用することで、複数のNetVault ServerとClient間で、テープ装置のドライブを動的に共有することが可能になり、テープ・ハードウェア資源を効率良く使用します。

LAN-Freeバックアップ

DSDとSmartClient機能を組み合わせて利用することで、複数のNetVault ServerとClient間でテープ・ドライブを動的に共有することが可能になります。NetVault ServerやClientからSCSIまたはFibre Channelを経由してダイレクトにバックアップを行うことで、LANのトラフィックを緩和し、またバックアップ・サーバが単なるデータの通り道になることも回避します。この設計はNetVaultのコアの部分に組み込まれているので、余計な高価なアプリケーション・ソフトウェアを追加することなく、シンプルにLAN-Freeバックアップが実現します。

混在メディアのサポート

テープ・ライブラリの中には、異なる種類のメディアやドライブの混在が可能なものがあります。NetVault Backupはこのようなテープ・ライブラリの制御にも対応しています。

様々なハードディスク・バックアップ

● 仮想テープ・ライブラリ(VTL)

NetVault Backupは、ディスクの中に仮想的にテープ・ライブラリ (=VTL) を作成し、その中にバックアップを取ることができるハードディスク・バックアップの機能を提供しています。VTL (Virtual Tape Library) をバックアップの最終メディアとして使えば、テープ装置がなくてもバックアップが行える※1ほか、バックアップの高速化のためVTLをバッファとして利用し、一旦ディスクにバックアップしたデータを、オフピーク時間にテープへ移動するようスケジューリングすることも可能です※2。

実ドライブが1台しかなくても、ハードディスク内に仮想的にテープ・ドライブを複数台作成することができるので、複数のバックアップ対象マシンを同時にバックアップすることが可能になり、これによりバックアップ時間の短縮を実現することが可能です。

※1 Disk to Disk Backup
※2 Disk to Disk to Tape Backup

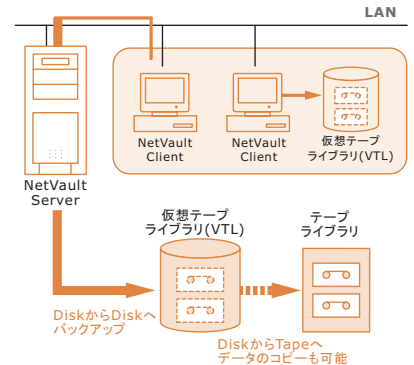
● 共有仮想テープ・ライブラリ(SVTL)

NetVault BackupのSVTL (Shared Virtual Tape Library) は、VTLと同じ機能を提供しますが、SVTLではすべての書き込み/読み込みのオペレーションにRaw Device Data Moversを使用するので、SVTLを作成した1台のNetVaultマシンが、同SVTLのオーナーシップを持つ必要がありません。これにより、複数のNetVaultマシンでひとつの仮想テープ・ライブラリを共有することを可能にし、直接SVTLに書き込み/読み込みを行うことことで、VTLよりさらに高速なディスク・バックアップを実現します。

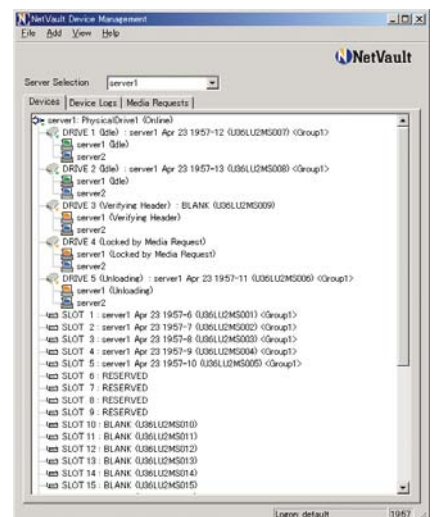
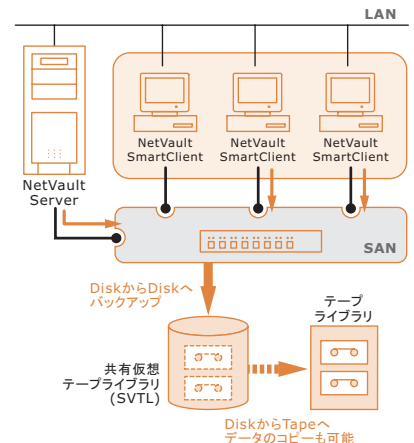
● サードパーティ製品の仮想テープ・ライブラリ

EMC、NetApp、Sun等、ディスクを使ってテープ・ライブラリのエミュレートを行う仮想テープ・ライブラリ製品へのバックアップにも対応しています。

仮想テープ・ライブラリ(VTL)



共有仮想テープ・ライブラリ(SVTL)



SVTL表示画面

バックアップ・サーバのリモート管理:

● ネットワーク・コントローラブル・サーバ機能

NetVault Backupのネットワーク・コントロール・サーバ機能を使用することで、NetVault Serverを別のマシンからネットワーク経由でコントロールすることが可能になります。NetVault Serverを別の場所から管理したい場合や、複数のNetVaultドメイン※を1台のマシンからまとめて管理したい場合に、NetVault Serverとは別のマシンをNetVaultの管理端末として使用することが可能です。

※ NetVaultドメインとは:
1台のNetVaultサーバとそれに割り当てられた複数のNetVaultクライアントでひとつのNetVaultドメインを構成します。

True Image リストア

データの変更、新規作成、削除をすべて正しく NetVault Backup が把握することにより、インクリメンタル・バックアップからリストアしても、一度のリストア作業で、リストアしたい時点のファイル状態へ正しくデータを復元することが可能です。

最新バックアップのリストア機能

NetVault Backup 7.4から、ユーザーが選択したデータの最新バックアップ地点からのデータをリストアすることが可能になりました。ユーザーは、最後にバックアップを行ったSavesetインスタンスのディレクトリ・インデックスをベースに、リストア・ジョブを定義しておくことができるので、最新のバックアップのリストアをスケジューリングすることが可能です。データ損失の際は、このジョブを使用して最新のバックアップ・データを迅速にリストアをすることができます。

NetVault Client側でのジョブの実行:

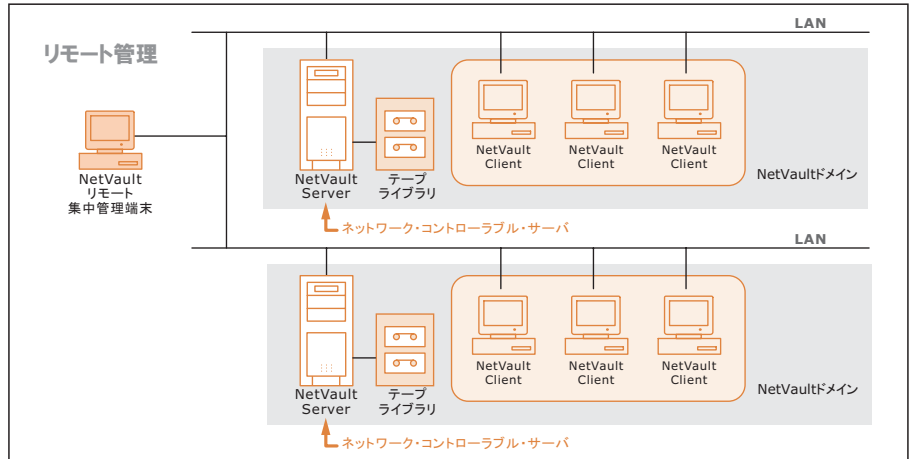
デブリケーション、データ・コピー、コンソリデーション
NetVault Backup 7.4から、NetVault Server
データを送らなくてもNetVault Client側でこれらジョ
ブを実行することで、ネットワーク負荷を軽減すること
が可能になりました。本機能は、特に遠隔地に
SmartClientが置かれている場合有効です。

Job Priority機能

ジョブの実行優先順位を、ジョブ毎に指定することが可能です。複数のジョブがテープ・ドライブやメディアといった同じリソースを取り合っている場合、最も優先順位の高いジョブをそのリソースに割り当てることが可能です。

Job Retry機能

NetVaultジョブが失敗した場合、自動的にそのジョブをリトライさせることができます。リトライする回数は、1回から最大10回まで任意に指定することが可能です。また、オプションのタイマー設定を使ってジョブ再開オペレーションを遅らせることも可能です(24時間以内)。



強力なコマンド・ライン・インターフェイス

クライアントの管理、ジョブの作成、デバイス/メディアの管理等様々な操作がコマンド・ラインで行えます。

ポリシー・ベースのジョブ管理機能

Policy Managementツールを使ってジョブ・テンプレートを作成すると、複数のクライアントに同時にそのテンプレートを適用することができ、効率よくバックアップ・ストラテジーを定義し管理することが可能です。これにより、マニュアル操作でジョブ管理を行う際に起こる人的ミスを減らします。

ユーザー・レベルのアクセス権限

簡単にストレージ管理を行うために、User Level Access機能を使用すると、ユーザーのアクセス権限を細かく定義することが可能になります。例えば、バックアップ管理者だけにレポート作成を実行する権限や、バックアップ・ジョブを定義する権限を与え、それ以外のユーザーには、各クライアントのファイルだけしかリストアできないよう制限するということが可能です。

強力なレポート機能

The screenshot shows the NetVault Log viewer interface. At the top, there are tabs for 'FileView', 'Overview', 'Search', 'Export', 'Backup/Restore', 'Settings', and 'Help'. Below these are icons for various actions like 'Add', 'Edit', 'Delete', 'Refresh', 'Print', 'Export', and 'Import'. The main header displays 'NetVault 7.12 Service "rhel4as" - Report "NetVault Logs"'. Below this, the component is identified as 'Component "NetVault Logs" at 16:23:09, 2006 Mar 31'. The main area contains a table of events.

ID	Source	Event Name	Date	Event	Message
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	ログサービスが正常に起動しました
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	NetVault Manager: Starting
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Schedule Manager: Starting
NV	SQL	Start-up	2006 Mar 31	Started	Job 1: Full Device Backup: Submitted
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "Full Device Backup"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "Full Device Backup"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "NetVault Error Log"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Job 19: "Substituting Operator Message": Submitted
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "Substituting Operator Message"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Job 19: "Media Utilization": Submitted
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "Media Utilization"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Job 12: "Global NetVault/Logs": Submitted
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Scheduled command report: "Global NetVault/Logs"
NV	System	Start-up	2006 Mar 31	Started	Job 21: "NetVault Manager": Submitted

レポート機能により、システム管理者は、バックアップ・ジョブの結果や、バックアップ・データ容量、ドライブのパフォーマンスなどNetVaultの運用に関する様々な情報のレポートを作成することが可能です。レポートは、HTML、CSV、またはText形式で出力可

能で、動的に表示したり、印刷したり、完了時に Email 送信することも可能です。さらに、パワフルなレポート編集ツールを使って、ユーザーが定義したフォーマットを使用してレポートを作成することも可能です。レポート作成は、条件設定により実行したり、スケジューリングにより実行することが可能です。

BakBone Time

NetVault ServerとClient間で時間を同期することが可能です。このBakBone Timeを使用することにより、各マシンに設定されているシステムの時間に関係なく、NetVaultの処理だけ共通の時間を定義することが可能です。トレースログをBakBone Timeで記録することにより、各マシンの状況を正確に把握することができます。

ログの自動消去

ログの日付、ページ数、サイズ、容量などの条件を設定し、ログの自動消去が行えます。

NVDB Audit機能

NVDB (NetVault Database) Audit機能を使用することで、ユーザーがどのような操作を行ったかをトレースすることが可能になり、障害時の原因解析に役立ちます。

NVDB Grooming機能

NetVault Backupがより大規模なシステム環境で使用されるようになると、トラブル・シューティングやレポート生成のためNVDB (NetVault Database) に保持されるオペレーション情報が多くなります。NetVault Backupは、増加したNVDBの容量管理のため、Savesetインデックスの圧縮機能とオフライン化機能を提供しています。

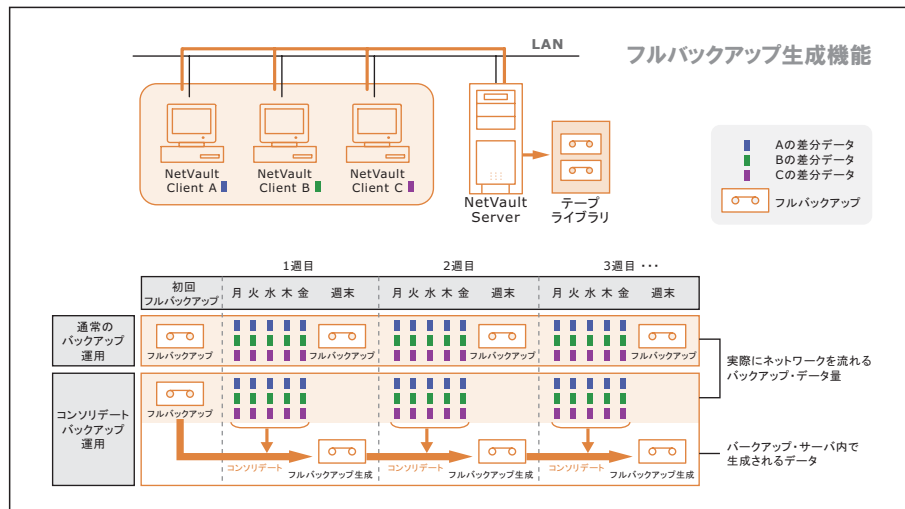
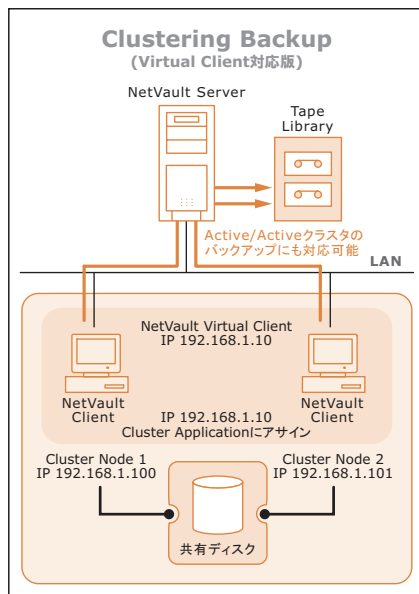
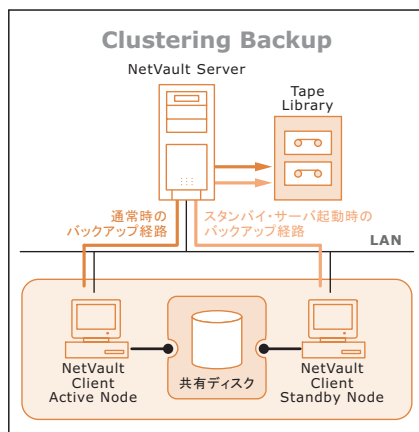
差分データ統合バックアップ:

● コンソリデート・インクリメンタル・バックアップ を使ったフルバックアップ生成機能

Consolidate Incremental Backups Pluginを使用すると、複数のインクリメンタル・バックアップを前回のフルバックアップに統合し、最新のフルバックアップを生成することが可能になります。本機能を使用することで、フルバックアップを一度行えば、再度フルバックアップを行わなくても、常に最新のフルバックアップ・データをバックアップ・サーバ内で生成することができます。大容量のデータを非常に限られた時間でバックアップしなければならない環境において、バックアップ・ウィンドウを最小限に抑えながら、確実にフルバックアップ・データを保持し続けることが可能になります。

クラスタリング・バックアップ

クラスタ化されているマシンの共有ディスクにNetVault Clientをインストールし、これらClientに各クラスター・ノードが持つ実IPを指定することにより、NetVault Server側からは1台のNetVault Clientとして認識



することができ、どちらのClientに切り替わっても同一のバックアップ・ジョブを実行することが可能になります。CLUSTERPRO、ClusterPerfect、LifeKeeper、Microsoft Cluster Server、PRIMECLUSTER等のクラスタリング・アプリケーションをサポートしています。また、Oracle 9i/10g Real Application Clusters (RAC)環境でもご利用いただけます。

NetVault Backup 7.4以降では、新たに"Virtual Client"と呼ばれる中間レイヤを使用してクラスタをサポートすることにより、個別スクリプト等を使用しなくても、バックアップノリカバリが行えるようになりました。Virtual Clientにより、NetVault Serverは、動的に切り替わるクラスタ構成内のClientを自動的に判別することが可能になり、アプリケーションのフェイルオーバーもトランスペアレントにサポートすることができるので、Active/Activeクラスター構成のバックアップにも対応可能です。

ファイアウォールを介したバックアップ

NetVault Backupは、パケット・フィルタリング型のファイアウォール環境に対応しています。バックアップに必要なポートを指定する機能により、ファイアウォール側で空けるべきポートを最小限にすることができ、より高いセキュリティと柔軟な構成をサポートしながら、パフォーマンスへの影響も回避することが可能です。

VMwareのバックアップ

VMware社のESX Serverは、システム・ハードウェア上で直接実行し、x86ベースのサーバ上に作成した仮想化レイヤー上で、LinuxやWindowsなど複数のOS (=ゲストOS) をホスティングするソフトウェアです。

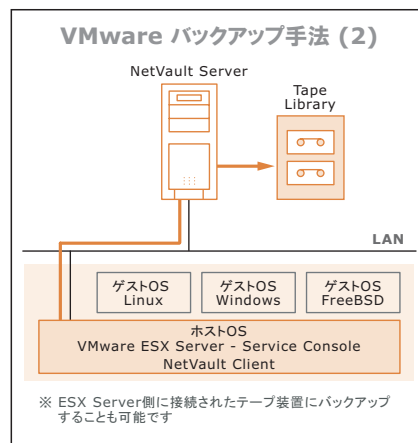
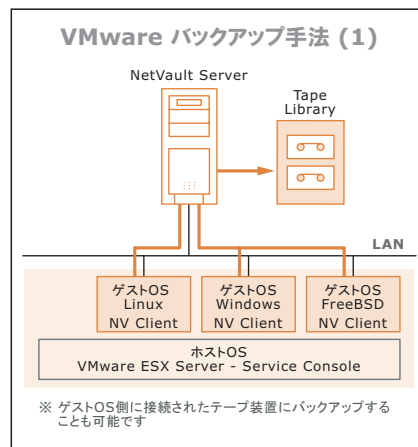
NetVaultでは、このVMware ESX Serverのバックアップに次の2つの方法で対応しています。

(1) VMware ゲストOSに NetVault Clientをインストール

ゲストOS上のファイルのフルバックアップ、差分/増分バックアップだけでなく、ゲストOS上で稼動するデータベースのオンライン・バックアップも行えます。

(2) VMware ESX Serverに NetVault Clientをインストール

ゲストOSは、ESX Serverからはひとつのイメージ・ファイルとして見えるので、ゲストOSのディザスタリカバリ用のバックアップを取得することが可能です。

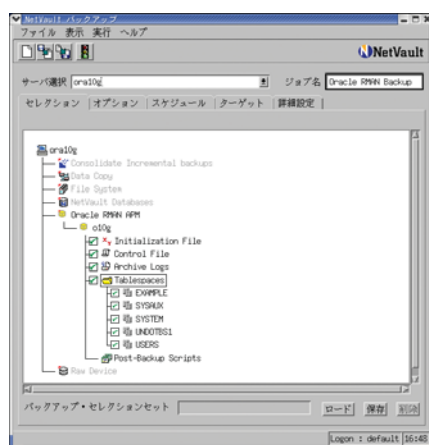


オンライン・バックアップ:

● アプリケーション・プラグイン・モジュール (APM™)

APMは、DB2、Informix、Lotus Notes、MS Exchange、MS SQL Server、MySQL、Oracle、PostgreSQL、SAP、Sybaseなど様々なアプリケーションにオンライン・バックアップ機能を提供するNetVault Backupのプラグイン製品です。

各アプリケーションが持つネイティブのバックアップAPIとNetVaultをシームレスに統合することで、通常のFile System経由のバックアップ操作と、これらAPMを使ったアプリケーション専用のバックアップ操作を行うGUIを共通化し、NetVaultのGUIを使ったポイント&クリックのシンプルなオンライン・バックアップを実現しています。



Oracle RMAN APM バックアップGUI



Microsoft SQL APM バックアップGUI

ディザスタ・リカバリ・オプション:

● VaultDR™

VaultDR™ は万が一の壊滅的なシステム障害の際に、ディスクごとデータを素早く復旧することを可能にする災害復旧オプションです。VaultDRには、大きく分けて下記2種類の製品があります。

● VaultDR for Intel x86

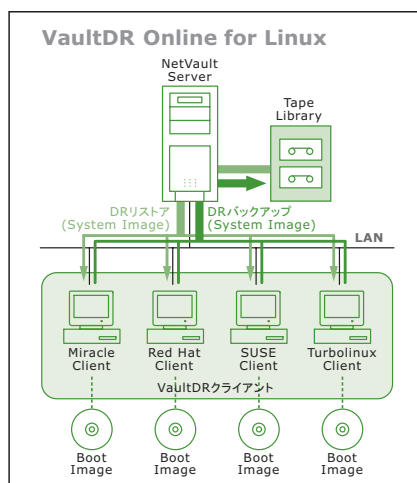
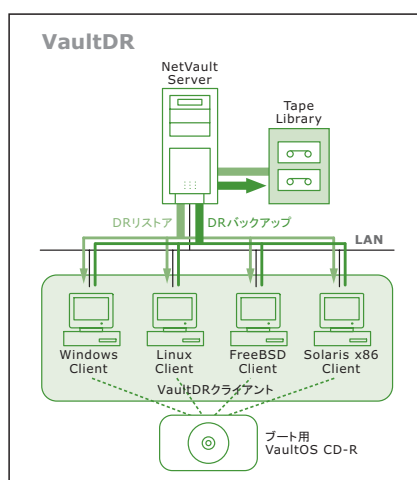
様々なIntelベースのOS※に対応しています。正常時、ディザスタ・リカバリ (DR) 対象としたクライアントをNetVault ディザスタ・リカバリ専用OS (= VaultOS) で起動し、ディスク・イメージのバックアップ(ディザスタ・リカバリ・バックアップ)を取得しておきます。壊滅的なシステム障害が起こった場合は、該

当クライアントをVaultOSでブートし、ネットワーク経由でディザスタ・リカバリ・バックアップ・データをリストアすることで、OSやアプリケーション、システム設定情報、パーティション情報等を含めた形で迅速にシステム復旧を行うことが可能です。

※ 対応OS: FreeBSD、Linux、NetWare、UnixWare、Windows、Solaris x86

● VaultDR Online for Linux

Linux(IA32)を稼動させたまま、ディザスタ・リカバリ用のバックアップを取得しておくことが可能です。正常時、ディザスタ・リカバリ(DR)対象としたクライアントのSystem Imageのバックアップを取得しておきます。同時に、各マシンに毎にBoot Imageを作成しておき、ディザスタ・リカバリ時に該当クライアントのブートに使用します。



オープン・ファイルのバックアップ:

● オープン・ファイル・マネージャー (OFM™)

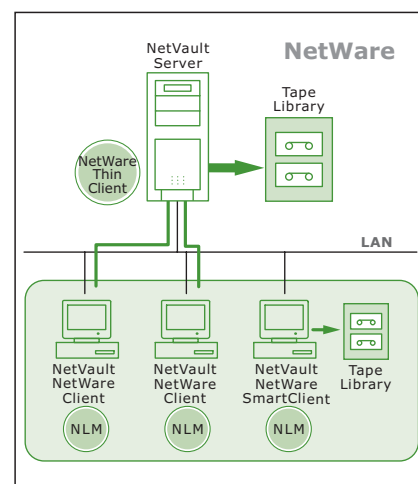
オープン・ファイル保護用オプションOFMは、Windows 2000、Windows Server 2003環境において、開いているファイルや使用中のファイルもバックアップの対象とすることを可能にするオプションです。OFMオプションを使ってバックアップを実行すると、システム上のすべてのオープン・ファイルに対し、動的に割り当てられるプレイメージ・キャッシュが作成されます。プレイメージ・キャッシュには、変更されたデータだけが保存され、NetVault Backupが変更されたファイルにアクセスすると、OFMは、オリジナル・データの代わりに、プレイメージ・キャッシュからバックアップを実行します。これにより、バックアップを開始した時の状態で整合性を保ちながらバックアップ・データをテープに書き込むことが可能です。

● Windows 2003 VSSサポート・オプション

Windows Server 2003、Windows Storage Server 2003用オプションです。Microsoft社が提供するOS側のVSS機能をNetVaultから呼び出し、Shadow Copyとして書き出されたスナップ・ショットをバックアップすることで、アプリケーションやサービスを停止することなく、整合性を保ったバックアップを実現します。

NetWareのバックアップ

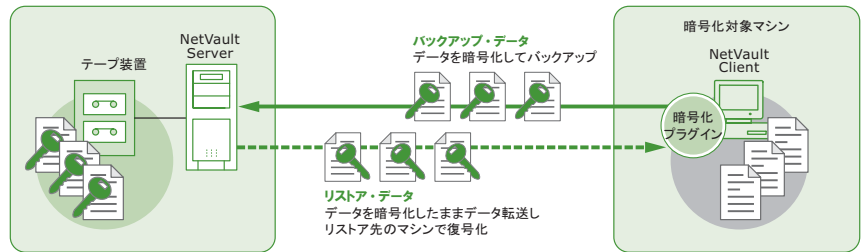
NetVault BackupのNLM (NetWare Loadable Module)をバックアップ対象とするNetWareマシンにインストールすることで、NetWare Thin Clientアプリケーション・プラグイン・モジュール(APM)をインストールしたNetVault Serverから、ネットワーク経由でNetWareマシンのバックアップを行うことが可能になります。NetWare SmartClientオプションの利用により、NetWare側にテープ装置を接続してローカルにバックアップを行うことも可能です。



暗号化プラグイン

バックアップ対象となるマシン側でデータを128 bit アルゴリズムで暗号化し、ネットワークに送信しテープに書き込みます。そのためテープ・メディアに書き込まれるデータも、バックアップ/リストア時にネットワーク上を流れるデータもすべて暗号化したまま取り扱うことが可能です。暗号化用のKeyは、マシンごとに任意に設定することが可能で、リストアの際には暗号化に使用したKeyを入力することにより、どのマシンにリストアすることも可能です。

暗号化プラグイン



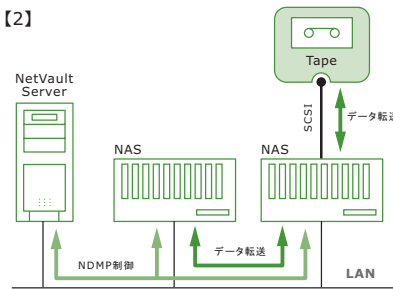
NASのバックアップ

EMCやNetAppなどNDMPに対応したエンタープライズ・クラスのNAS (Network Attached Storage) のバックアップには、NDMPプラグイン・オプションを提供しています。NDMPプロトコル(Network Data Management Protocol)を利用することにより、NDMP対応のNASデバイスなら、NFSマウントやCIFS経由でバックアップを行うことなく、信頼性の高い、高速なバックアップ/リストアが実現します。NetVault BackupのNDMPオプションは、3WayといわれるNDMP機能をフルサポートしているので、どのようなシステム環境にも柔軟に対応し、今日の市場にある製品の中で最も優れたNDMPソリューションを提供しています。

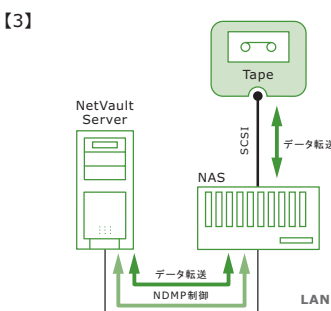
● NDMP プラグイン:

NDMPの高速なネットワーク・データ転送能力を活かし、集中管理を行いながら、NASデバイスの高速なデータのオンライン・バックアップ/リストアを実現します。NASデバイスのデータは、【1】NASローカル接続のテープ装置にバックアップ/リストアできるだけでなく、【2】NASデバイスから別のNASデバイスへ接続されたテープ装置へ、【3】NetVaultサーバやクライアントからNASデバイスへ接続されたテープ装置へ、【4】また逆にNASデバイスからNetVaultサーバやクライアントに接続されたテープ装置へと自由にデータを移動しバックアップ/リストアすることが可能です。【5】NAS/SAN環境でテープ装置/ドライブを動的に共有することも可能です。

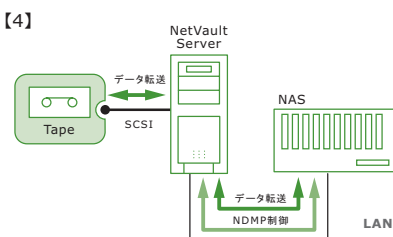
【2】



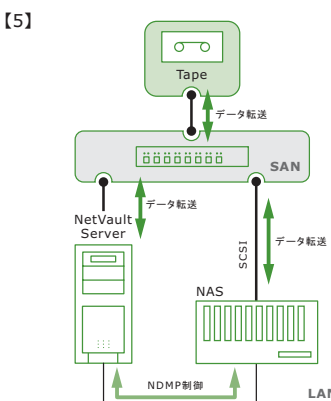
【3】



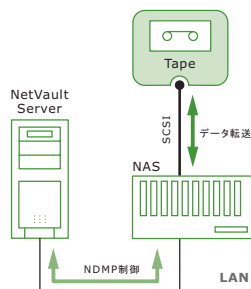
【4】



【5】



【1】



NetApp専用プラグイン

● Snapshot Manager プラグイン:

NetApp FilerのSnapshot作成やSnapshotからのリストアがNetVault BackupのGUIを使って直感的に行えます。

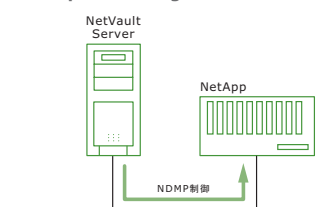
● SnapMirror to Tape プラグイン:

NetApp Filerからテープ装置にSnapMirrorイメージの作成が行えます。

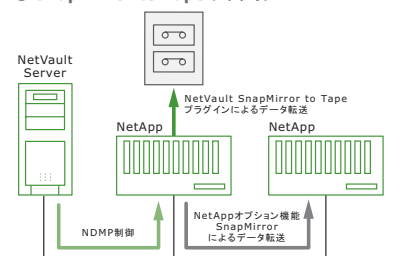
● SnapVault Manager プラグイン:

NetVault BackupのGUIを使って、NetApp FilerだけでなくUNIX/Linux/Windows等オープン・システムのSnapshotもまとめてNetAppに作成することが可能です。

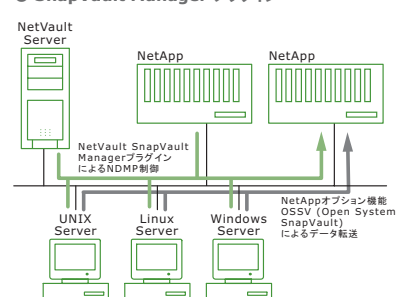
● Snapshot Manager プラグイン



● SnapMirror to Tape プラグイン



● SnapVault Manager プラグイン



NetVault Backupパッケージ	スタンダードエディション	ワークグループ	ワークグループ ライト (オートローダ専用)	オフィス	エンタープライズ
型番	NV7STA	NV7GRP	NV7WGL	NV7OFF	NV7ENT
NetVault サーバ	1	1	1	1	1
NetVault クライアント	1	5 (+5)	5 (+5)	10 (+30)	20 (+無制限)
最大テープ・ライブラリ	1	1	4	4	無制限
テープ・オンライン・スロット	(+8)	(+32)	8 (+24)	(+84)	(+無制限)
Media Drives	1	4	4	8	無制限
オープン・クライアント	-	オプション	オプション	オプション	オプション
ネットワーク・コントローラブル・サーバ	標準	標準	標準	標準	標準
Smart Client™	-	オプション	-	オプション	オプション
Dynamically Shared Drives™ (DSD)	-	オプション	-	オプション	オプション
仮想テープ・ライブラリ	オプション	オプション	オプション	オプション	オプション
Application Plugin Modules™ (APM)	オプション	オプション	オプション	オプション	オプション
NDMPオプション	-	オプション	-	オプション	オプション
VaultDR™ Offline Client	-	オプション	オプション	オプション	オプション
VaultDR™ Online Client for Windows	オプション	オプション	オプション	オプション	オプション
VaultDR™ Online for Linux	-	オプション	オプション	オプション	オプション

※ ()内の数字は、追加で購入できるライセンス数です。

最小システム要件

- 十分なディスク空き容量
(OSやインストール方法により異なります。詳細はNetVaultアドミニストレーターズ・ガイドをご覧ください。)
- RAM 128MB以上
- TCP/IPネットワーク
- ディスプレイの解像度 800x600以上
- ディスプレイ256色以上

NetVault Backup対応リスト

- **主な対応ドライブ**
AIT 1/2/3/4、S-AIT、DDS2/3/4、DAT72、DLT1、DLT VS80/160、DLT 4000/7000/8000、SDLT220/320/600、DTF/DTF2、LTO/LTO2/LTO3、M2、StorageTek 9840、SLR7/50/60/75/100/140、VXA/VXA2
- **主な対応デバイス**
ADIC、Breece Hill、Dell、Exabyte、Fujitsu、HP、IBM、NEC、Overland Storage、Panasonic、Plasmon、Qualstar、Quantum、SONY、Spectra Logic、Sun/StorageTek (plus ACSLS)、Tandberg Data
- **主な対応SAN/NASデバイス**
Brocade、Cisco、Crossroads、EMC、Emulex、IBM、Network Appliance、Qlogic、Snap Appliance、Sun、Windows-Powered/Windows Storage Server 2003 NAS
- **対応NetVault Server/Client OS**
AIX、FreeBSD、HP-UX (Itanium)、HP-UX (PA1/PA2)、IRIX、Linux (IA32 / Itanium / PowerPC 64 / x86 64)、MAC OS、MP-RAS、OpenServer、Solaris (SPARC)、Solaris (x86)、Tru64、UnixWare、Windows 2000 (IA32)、Windows Server 2003 (IA32 / x64)、Windows Storage Server 2003 (IA32)、Windows Small Business Server 2000/2003 (IA32)、Windows XP Professional (IA32)
- **対応NetVault Client OS**
Novell NetWare、Windows NT 4.0 SP5 or later
- **オンライン・バックアップ対応アプリケーション**
DB2、Informix、Lotus Notes/Domino、Microsoft Exchange、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle Online/RMAN、PostgreSQL、SAP、Sybase、Teradata

©2006 すべての著作権はBakBone Softwareが所有しています。本カタログに使用されているBakBoneのロゴ、NetVault、APMは、バックボーン・ソフトウェア社の商標もしくは登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の商標もしくは登録商標です。
CL-002J-2A 06/05

仕様やシステム要件は予告なく変更することがあります。最新情報につきましては、BakBone社ホームページ <http://www.bakbone.co.jp>から、製品 > 製品ドキュメント > 対応リスト をご覧ください。

www.bakbone.co.jp



バックボーン・ソフトウェア株式会社
〒163-0711
東京都新宿区西新宿2-7-1
新宿第一生命ビル11F
Phone: 03-5908-3511
Fax: 03-5908-3512
sales@bakbone.co.jp
www.bakbone.co.jp

● お問い合わせ先